

# EUROPEAN PATENT OFFICE

## Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 2001252298  
PUBLICATION DATE : 18-09-01

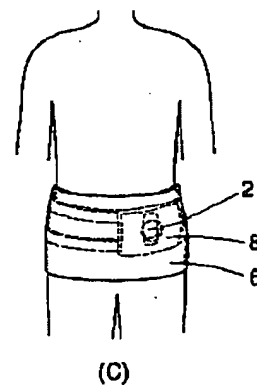
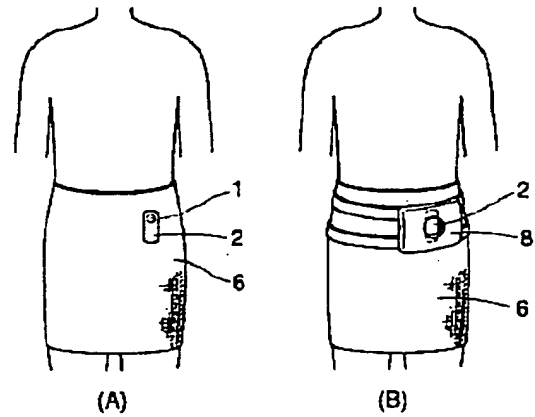
APPLICATION DATE : 10-03-00  
APPLICATION NUMBER : 2000066211

APPLICANT : KAWAKAMI KK;

INVENTOR : KAWAKAMI EIICHI;

INT.CL. : A61F 5/24 A61F 5/042 A61F 13/14 //  
A41B 9/12 A61F 5/445 A61F 5/449

TITLE : HERNIA PREVENTING HEALTH BAND  
FOR ARTIFICIAL ANUS WEARER AND  
USING METHOD

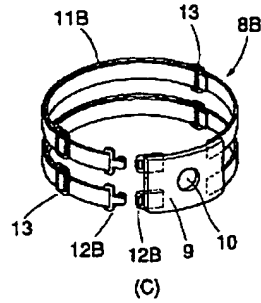
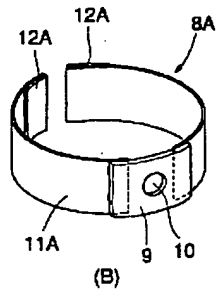
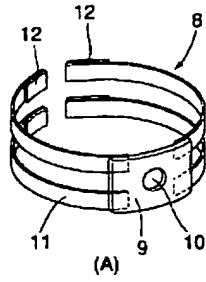


ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a health band for preventing an artificial anus wearer from easily suffering from hernia and removing the unpleasant feeling caused by an excreta receptacle.

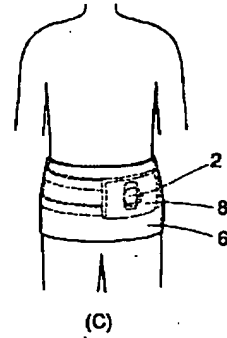
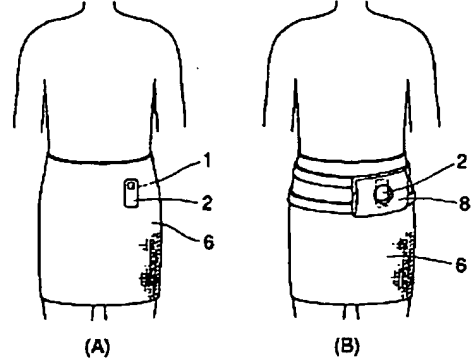
SOLUTION: A hernia preventing health band is constituted of a cylindrical health band 6 and a fixing instrument 8. A wearer wears the health band directly to draw out the receptacle 2 from a slit 7 to avoid the direct contact of the receptacle with the skin and fits the hole 10 formed in the pad 9 of the fixing instrument to the receptacle to fasten the receptacle in the bole 10 by a cover band 11 and applies restriction force to the artificial anus I to prevent hernia and folds back the health band to cover and conceal the periphery of the receptacle to relax the mental pain originating from appearance.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO

【図4】



【図5】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

A61F 5/449

識別記号

F I

A61F 5/04

特許コード (参考)

311H

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2001-252298  
(P2001-252298A)

(43) 公開日 平成13年9月18日 (2001.9.18)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	タームコード <sup>*</sup> (参考)
A 6 1 F	5/24	A 6 1 F 5/24	3 B 0 2 8
	5/042	13/14	C 4 C 0 9 8
	13/14	A 4 1 B 9/12	B
// A 4 1 B	9/12	A 6 1 F 5/445	
A 6 1 F	5/445	5/449	
審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願2000-66211(P2000-66211)

(22) 出願日 平成12年3月10日 (2000.3.10)

(71) 出願人 500112881

川上株式会社

兵庫県神戸市北区鈴蘭台東町2丁目4-32

(72) 発明者 川上 栄一

兵庫県神戸市北区鈴蘭台東町2丁目4-32

川上株式会社内

(74) 代理人 100062498

弁理士 竹内 卓

Fターム (参考) 3B028 HA02

4C098 AA01 AA02 AA09 BB17 BC03

BC04 BC08 BC17 BC18 CC24

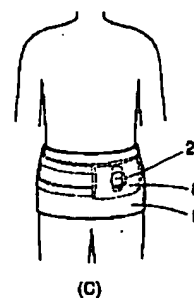
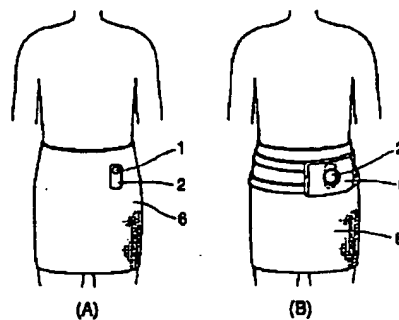
CE12

(54) 【発明の名称】 人工肛門装着者用ヘルニヤ予防腹帯と使用方法

(57) 【要約】

【課題】 人工肛門装着者が罹り易いヘルニヤの予防と排泄物受納体による不快感を除去する腹帯を提供する。

【解決手段】 ヘルニヤ予防腹帯5を円筒状の腹巻6と固定具8とで構成し、腹巻を直接装着し切り目7から受納体2を引出し、受納体と皮膚の直接接触を避け、受納体に固定具の当て物9の孔10を合わせて被せバンド11で締め込み、人工肛門1に抑止力を加えてヘルニヤを予防し、腹巻を折返して受納体周囲を覆い隠し外観からくる精神的苦痛を緩和した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 肌触りのよい材質からなり、充分な長さ  
と半径方向に伸縮性と一部に切り目(7)を有する円筒  
状の腹巻(6)と、孔(10)を有する当て物(9)と  
隅に固着したバンド(11)からなる固定具(8、8  
A、8B)とを組み合わせたことを特徴とする人工肛門  
装着者用ヘルニヤ予防腹帯。

【請求項2】 充分な長さ  
と半径方向に伸縮性を備えた  
円筒状の腹巻(6)と、当て物(9)とバンド(10)  
で構成した固定具(8、8A、8B)との組み合わせに  
於いて、

腹巻を装着後に切り目から人工肛門部に装着した受納体  
(2)を抜き出し、受納体に固定具を被せて略形状の  
当て物の孔(10)を合わせながら、隅に固着した弾力  
性の有るバンドを緊張して適度な強さで締め付け固定し  
た後に、腹巻を折り返し受納体と固定具を被覆すること  
を特徴とする人工肛門装着者用ヘルニヤ予防腹帯の使用  
方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、内蔵臓器の疾患で自然  
排泄機能を消失し、人工肛門の装着者が被り易いヘルニ  
ヤを予防する腹帯と使用方法に関する。

【0002】

【従来の技術】内蔵臓器の疾病に罹患し、特に排泄機能  
を失うと人工肛門を装着することになる。人工肛門は下  
腹部の皮膚表面に孔を開け腸端を接続して形成される  
が、弁機能を伴わない為に排泄が継続して停まることが  
なく、人工肛門に袋状の着脱式受納体を取り付けて対処  
している。

【0003】着脱式受納体は排泄物が人工肛門部から漏  
れない構造で、軽量で大きな容積を持つものではない  
が、構造と機能等の求められる使用勝手が向上し、人工  
肛門に接続する為に軟質の袋側面に開口した接続部分を  
備える。受納体は使用者により違いはあるが1〜数日の  
使用期間を経て交換する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】受納体は軽量小形化さ  
れたとは言え、受納体装着後に排泄物を溜め始めると徐  
々に膨らみ下腹部から突出するので、ズボンを止めるバ  
ンド等の締め込み用具が巧く使用できないこと、下着だ  
けの時に受納体が露出することによる周囲への気配り、  
受納体が直接皮膚に触れる違和感等の様々な課題を提起  
する。

【0005】さらに、先天的または後天的原因により  
内蔵臓器が体内の異なる部位に移行するヘルニヤと呼ば  
れる疾患と同様な現象が、人工肛門の装着者にも現れ易  
いことも大きな課題である。その原因は皮膚表面に腸端  
を移行し人工肛門としたことを主因とし、受納体突出  
する為に腹部の締め込み不足が起り易いことが副因であ

る。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明は、既述の課題の  
解決を目的とし、下記的手段により構成した人工肛門装  
着者が快適な生活を送る為のヘルニヤ予防腹帯に関する。

【0007】本発明は、肌触りのよい材質からなり、充  
分な長さ  
と半径方向に伸縮性と一部に切り目  
を有する円筒状の腹巻と、孔を有する当て物と隅に固着したバンド  
からなる固定具とを組み合わせたことを特徴とする人工  
肛門装着者用ヘルニヤ予防腹帯であり、充分な長さ  
と半径方向に伸縮性を備えた円筒状の腹巻と、当て物とバン  
ドで構成した固定具との組み合わせに於いて、腹巻を装  
着後に切り目から人工肛門部に装着した受納体を抜き出  
し、受納体に固定具を被せて略形状の当て物の孔を合  
わせながら、隅に固着した弾力性の有るバンドを緊張し  
て適度な強さで締め付け固定した後に、腹巻を折り返し  
受納体と固定具を被覆することを特徴とする人工肛門装  
着者用ヘルニヤ予防腹帯の使用  
方法である。

【0008】

【発明の実施の形態】本発明は、内蔵臓器の疾患で自然  
排泄機能を消失した障害者のケアに関する用具と使用  
方法で、円筒状で半径方向に特に伸縮する弾力構造を持  
つ腹巻と、人工肛門に接続した受納体を抑える当て布と  
バンドからなる固定具とで構成したヘルニヤ予防腹帯に  
関する。

【0009】円筒状の腹巻は直接皮膚と接するので、長  
時間の使用時に伸縮性及び肌触りが衰えないこと  
が保温性より必要で、天然に近い繊維を主材に紡いだ  
糸を使用し、円筒の半径方向に弾力を与える織り構造の  
布地が好適である。固定具は人工肛門部の抑止が目的  
で、当て布は収納容器と係合する孔付きとし、バンドは  
弾力性のある材料で形成し弾力調整機能を備える。

【0010】

【作用】本発明によるヘルニヤ予防腹帯は、人工肛門部  
を固定具を使用し自らが選択した力で押えてヘルニヤの  
発生を防止し、腹巻で受納体が肌に直接触れることを防  
ぎ、折返した腹巻で受納体周囲を被覆する。

【0011】

【実施例】図1は人工肛門に受納体2を装着した全体俯  
瞰で、図2に人工肛門1と受納体との装着状態を拡大し  
て示した。図3は本発明の構成体の一方である円筒状の  
腹巻6を、図4(A、B、C)に異なる態様の固定具  
8、8A、8Bを夫々斜視状態で示した。図5(A、  
B、C)に円筒状の腹巻と固定具からなるヘルニヤ予防  
腹帯1の着用順序を示した。

【0012】図1、2が示す様に、受納体2は人工肛門  
1との接続部分4以外にも、皮膚に触れる部分を相当に  
残し、小形とはいえ体に直接装着した受納体は突出する  
為に衣服の着付けが難しい。例えば、ズボン等はバンド

の様な締め込み具より吊り具が使い易い為、下腹部の開  
口部である人工肛門周囲の抑えが不十分となりヘルニア  
を起こし易くなる。

【0013】ヘルニア予防腹帯5は図3、4に示す二部  
材で構成する。円筒状の腹巻6は肌触りのよい材料を使  
用し、特に円筒の半径方向に伸縮可能な構造とする為  
に、繊維自体と横糸の織りに弾力性を持たせ、円筒の  
上下何れかに近い側に切り目7を備え、折返しても腹巻  
として充分に役立つ長さとしてある。また、切り目の周  
囲は別材で補強するのが望ましい。

【0014】図4(A)の固定具8は方形の当て物9  
の略中央部に孔10を開け、四隅に弾性材料でなるバン  
ド11の一方を夫々固定し、他方に一組のバンド毎に接  
続位置の選択が出来る接続具12を備えた構造で、この  
固定具は孔を受納体2の胴部3にあてがい受納体を固定  
し、人工肛門1にヘルニアの発生を防止する一定の抑止  
力を加える際に、体形に合わせて二本のバンドの締め具合  
を加減できる。

【0015】図4(B)は別態様の固定具8Aで、方形  
の当て物9の両端に弾性材料でなる幅広バンド11A  
の一方を固定し、他方に接続位置が選択できる接続具  
12Aを備えた構造で、この固定具は孔10を受納体2の  
胴部3にあてがって受納体を固定する際に、図4(A)  
に比べて人工肛門1の周囲に強い抑止力を加えることが  
できる。

【0016】図4(C)は別態様の固定具8Cで、方形  
の当て物9の四隅に長さの調節ができるアジャスター  
13付きのバンド11Bの一方を夫々固定し、他方にフ  
ック等の止め具12Bをバンド毎に備えた構造である。  
この固定具のバンドはアジャスター間を二重とする長さ  
調節部分を備え、瘦身形から肥満形まで幅広く対応し抑  
止効果は他の固定具と同じである。このバンドは非弾性  
材料の調節部分とは別部分に弾性材料を挟み込むと使い  
易くなる。

【0017】図5(A, B, C)はヘルニア防止用腹帯  
5の着用手順を示した。図5(A)は腹部に円筒状の腹  
巻6を装着し、切り目7から受納体2を腹巻上に引出し  
た状態を示した。この動作で皮膚と受納体の間に腹巻が

入り込み、皮膚と受納体の胴部3との接触による不快感  
を緩和する。

【0018】図5(B)は受納体2の胴部3に固定具8  
の方形の当て物9の孔10を掛けて固定した状態を示  
した。固定具は腹巻6上で使用し受納体への排泄物の溜  
まり具合に合わせて付属のバンドで締め加減を調節し、  
適度の抑止力を人工肛門1に与え続けてヘルニアを防止  
する。図5(C)は同図(A)に示す腹巻を中央で折返  
し、受納体を含めて被覆した状態を示した。この状態は  
受納体の装着を隠すので精神的な苦痛の緩和に役立つ。

【0019】

【発明の効果】本発明のヘルニア予防腹帯は下記の効果  
をもたらした。①腹巻により皮膚と受納体が両者の接続  
部分を除いて触れることがなくなり、接触による炎症防  
止や突出する受納体による違和感の緩和に役立った。②  
固定具で人工肛門部を適度の強さで押えるのでヘルニア  
の発生を防止した。③受納体周辺を腹巻で被覆すること  
により、外観上の見栄えからくる精神的苦痛を和らげ  
た。

【図面の簡単な説明】

【図1】人工肛門に受納体を装着した全体俯瞰である。

【図2】図1の受納体装着部の拡大側面である。

【図3】円筒状の腹巻を斜視状態で示した

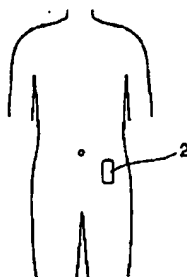
【図4】固定具を斜視状態で示した

【図5】(A, B, C)にヘルニア予防腹帯1の着用順  
序を示した。

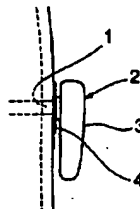
【符号の説明】

- 2 受納体
- 5 ヘルニア予防腹帯
- 6 円筒状の腹巻
- 7 切り目
- 8, 8A, 8B 固定具
- 9 方形の当て物
- 10 孔
- 11, 11A, 11B バンド
- 12, 12A, 12B 接続具
- 13 アジャスター

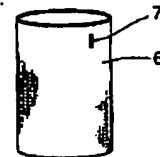
【図1】



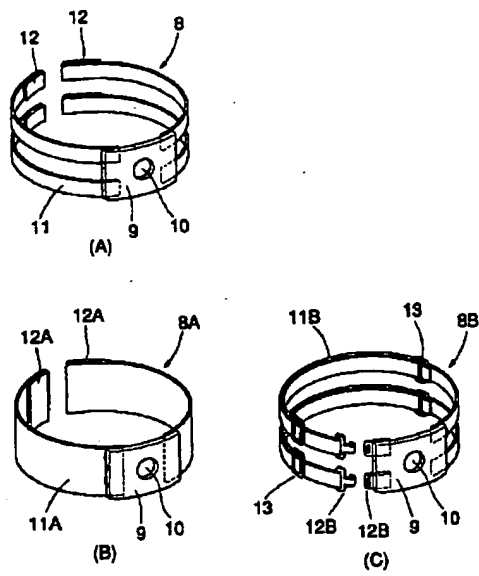
【図2】



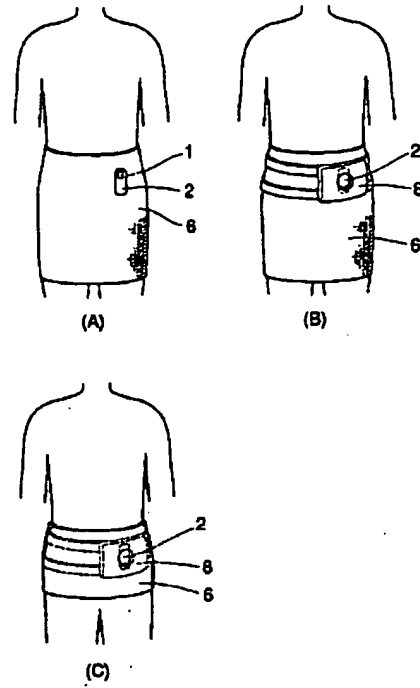
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

A 6 1 F 5/449

識別記号

F I

A 6 1 F 5/04

特許庁 (参考)

3 1 1 H